

思い出に残る困々

大即 信明

いろんな国に行った。その中でも、死ぬまで忘れない思い出のいくつかを紹介しようと思う。

India, 1980

道路の両側には白い丸太が並んでいるように見えた。実は、多くの人が寝ているのであった。これが私の初の海外体験であった。

美しい日の出だ。大河の対岸から真っ赤な太陽が昇っていた。人々は、ガンジスで沐浴し口を漱いでいた。しかし、川面はどう見ても汚物だらけだし、私の靴は牛の糞まみれであった。信仰は凄しいし、景色は遠くから見るのが美しい。

Pakistan, 1992

これは、イスラム最高の御馳走に違いない。子羊を土の中で6時間以上蒸し焼きにしたものだ。しかも、頬肉が最高の部位であるようだ。ペシャワール工大でのJICA調査団団長であったので、恨めしそうな子羊の眼の下の頬肉をいただくこととなった。

武装した兵士の警護の元、アフガン国境へ行く。「道の両側100mまでは責任を持つ、それ以上は不可能」とのことであった。ところどころにソ連戦車の残骸があった。アフガン国境には大規模な密輸基地があった。

機材供与に関するminutes of discussions

にサインした。1992年のパキスタンでの5億円である。私としては人生で一番緊張した。

Texas, 1984

突然メキシコ側の警備に止められた。その日3度目の越境のときだった。テキサス州ラレドは国境のリオグランデ川を挟んでアメリカ側とメキシコ側に町があり、メキシコ側の物価は半分以下であった。アメリカ側に駐車し、大量の買い物を運んでいる最中であった。スペイン語でいろいろ質問や警告があった。超カタコトで説明し許してもらえた。

Bangkok, 1990

New Halfは、親切で力が強い。妻とバンコクでshowを見た帰りのことである。借りていたタクシーのエンジンがかからなくなって、押しがけしようとしていた。妻と私の2人では十分に押せないで困っていると、先ほどの超セクシー美人が、私服ノーメイクで一緒に押してくれ、エンジンがかかり無事ホテルに帰ることができた。親切で力持ちの美人であった。感謝。

Laos, 2003

ラオス大学の先生は、エンジンはかけたまま、ドアは開けたままで私の荷物を半分持って空港出発口まで見送ってくれた。全く泥棒の心配はないそうである。ビエンチャンには

100mいくと立派な寺院がある。信仰が篤い人々なのか。そういえば昨夜のカラオケでもチップが多いと言って半分返された。人生最初で最後である。

Manila, 2009

フィリピン工大のMr&Miss Contestは、学科対抗である。種目は、Formal wear, Dance, swim suit, speechなどである。審査は厳格で、男性教員2名女性教員2名で行う。候補者は、ほとんど命がけでperformanceする。優勝候補が少しのミスで優勝できない。縁あって準Mr&Missに賞品を授与することになり、自分もtensionが最高潮であった。

また、巨大台風オンドイに遭遇し、たまたま車で移動中だった我々は、数km四方の陸の孤島に取り残されてしまった。幸いその陸の孤島の中にはマックがあり、食べるには困らなかったが、数度脱出を試み、その間、電線の切断と爆発や火災に遭遇し、怖い思いもした。

Singapore, 2010

縁あって、シンガポールには1980年代より30回以上行っている。当初は、港湾技術のJICA expertとして、指導する立場であった。いまや、シンガポールは1人当たりGDPでわが国を抜き、港はすべての面で横浜港、神戸港を上回り、チャンギ空港も成田や羽田を凌駕する。

先日、国際会議があり、シンガポール大学のT先生に「大即さんは昔は私の指導員だったんだよ」といわれ、恥ずかしい思いをした。もう「指導とか援助」という概念はNG、協



力・共存の時代である。油断すれば、繁栄なんてすぐ逆転する。

Morocco, 2000

モロッコでは、ダムは最重要軍事機密である。運よく、古都Fez近くのダムの見学が出来た。乾燥した台地にそのダムとダム湖があり、その周囲には軍隊が駐屯していた。この地で「ダムは無駄」などと思う者はいない。

その他にも、バルサ、ストックホルム、フィジー、サンチャゴ、イスタンブール、サハリンなどで印象に残る思い出がある。これからいろいろな国に行きたいと思う。

[おおつき のぶあき /

東京工業大学大学院 教授, 工博]